

COHESITY

Cohesity 導入事例




左から
ニッタン株式会社 中司 泰弘 氏
テクマトリックス株式会社 檜原 樹 / 森田 晃

総合防災システムメーカーのニッタン株式会社が、増大する一方のデータの保存先として採用したのが、ハイパーコンバージド型バックアップソリューションの「Cohesity」だ。

消防用設備全般の工事施工、防災機器の製造・販売および保守点検業務を手掛けるニッタンでは、機器開発における情報や工事・施工の記録を保存するため、大容量のストレージを運用している。ストレージ機器の更新時期を迎え、次期ストレージインフラとして採用したのが、ハイパーコンバージド型のバックアップソリューション「Cohesity」だ。「Cohesity」の高速検索機能や運用負荷の低さを高く評価。また、高い重複排除・圧縮機能により大きな効果が出ている。

信頼性の高い総合防災システムを一貫して提供

1954年に創業したニッタンは「お客様の大切な生命、財産を火災からお守りする」を企業理念として掲げ、以降60年以上にわたり、総合防災システムメーカーとして消防設備・機器の開発・製造、設備の設置工事、保守を手掛けてきた。最近ではビーコンを活用した屋内位置情報システム「B Catch Now」のサービスを開始。非常時の避難誘導や初動対応支援のみならず、通常時のリアルタイム所在地把握や行動データの可視化に応用できるシステムとして期待されている。

国内のみならず、アジア・ヨーロッパを中心とした海外にも進出。多くの国の人々の生命や財産を火災から守るべく奮闘している。

情報システム部課長の中司泰弘氏は、ニッタンのITシステムについて「社員数1,000名あまりと規模はさほど多くはありませんが、開発・製造から、施工、保守まで幅広い業務を手掛けていることもあり、情報システム部で運用しているシステムは多岐にわたります。そのため、運用負荷をどう軽減するかは大きな課題となっています」と語る。

データの大容量化でストレージの容量が危機的状況に

同社では5年ほど前に全国の拠点に分散していたNASやファイルサーバーを、セキュリティ強化やデータ保全の観点から、データセンタに設置した40TBの容量を持つNetAppに集約。運用を行ってきた。

ところが、機器開発のCADデータや、工事施工記録などで画像などの大容量データが急激に増加し、導入から4年ほどで空き容量が少なくなると、急遽対策に迫られることになった。

「実はNetAppは別の販売店から導入したのですが、バージョンが古く、

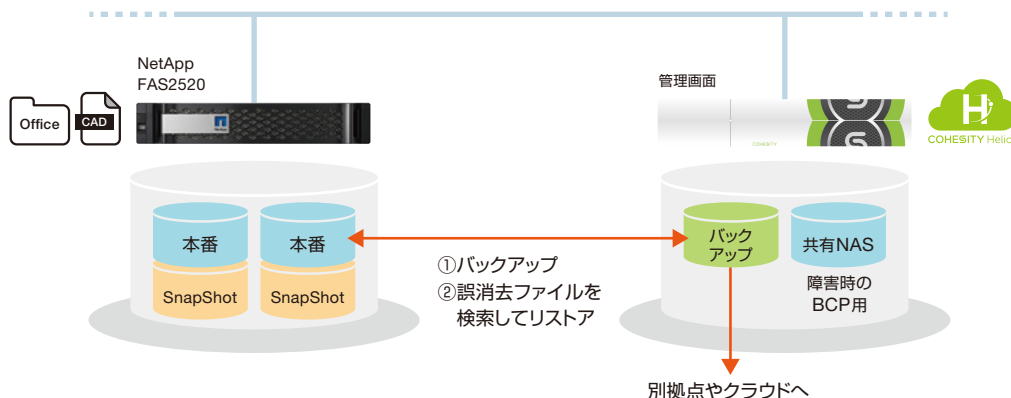
容量拡張ができませんでした。そこで、容量不足対策にあたっては、それまでネットワーク関連をお願いしていたテクマトリックスに相談することになりました」(中司氏)

高い性能と機能の豊富さに着目して、「Cohesity」を導入

当初、中司氏は別のソリューションの導入を検討していたが、テクマトリックスの勧めで「Cohesity」の導入を決める。「当初はCohesityをバックアップターゲットストレージとして導入する予定でいました。NetApp内のデータをCohesityに退避することで、NetAppの容量を確保しようともくろんでいたのです。ところが、Cohesityにはもっと使える機能があることが分かってきたため、結果的にはプライマリーNASストレージやクラウドゲートウェイとしてもCohesityを活用することになりました」(中司氏)

当初の想定とは違う使い方での導入となったが、Cohesityを選択した理由を中司氏はこう語る。「なにより、データの検索がしやすく、性能も速いことに驚きました。実は、月2~3回、ユーザーから誤って消してしまったデータを戻してほしいという依頼があり、これが意外と手のかかるものでした。NetAppは検索にやたらと時間がかかり、ファイル内の文字列をつかった検索もあまり精度が高いものではありませんでした。ところがCohesityで検索を行うと、ほぼ瞬時に結果が出てくるので驚きました。間くとSSD内にメタデータを持っているとのことで、その速さに納得しました。また、検索エンジン感覚で検索できるのも魅力的でした。精度も高く、データリカバリーの依頼もさほど負担ではなくなっています」。

ニッタン様 Cohesity運用イメージ



お客様担当者
ニッタン株式会社
情報システム部 課長
中司 泰弘 氏

もう一つ、導入を決定した理由の一つに Cohesityの柔軟性があるという。「近い将来 NetAppも更新時期が来ます。その際に、プライマリーストレージが NetAppや、他のベンダーのストレージになっても、またバックアップ先にクラウドを選択しても、今回導入した Cohesityを有効活用できるという点です。投資が無駄にならないという観点で導入を決めました」(中司氏)

メンテナンスフリー感覚で運用管理負荷を大幅に軽減

導入にあたってはテクマトリックスが用意したテスト環境でテストを実施。不具合が見つかったが速やかにテクマトリックスの技術者が対応して、すぐに解決した。

中司氏はCohesityの運用に関して、「使っていることを忘れてしまうぐらい」と評した。それぐらいノントラブルで問題なく稼動しているという。「Cohesityのコントロールパネルは見やすく使いやすいのですが、特にトラブルもないので、最近はあまり開くこともなくなりました」と語る。テクマトリックスのサポートについて中司氏はこう評している。「すでにネットワーク系で10年来お付き合いがありますが、いずれの担当者の方も、メールでも電話でもしっかり丁寧に対応していただけており、非常に満足しています。今回ストレージの件を相談したのも、これまでの信頼感からよい提案、サポートをしていただけるだろうという期待からでしたが、その期待を裏切らないサポートをしていただいていると思います」。

DX推進でデータの重要性がますます高まる中、Cohesityの信頼性と柔軟性に期待

今後の展望について中司氏は「今後、当社でもDXを推進していくなかで、ますますデータの重要性は増していくと考えています。特に当社の主事業の一つである設備施工や保守は設置する建物の寿命を考え

ると、数十年単位でデータを保管しておく必要があり、今まで以上に大量のデータを何らかの形で保管しておかなくてはなりません。例えば BCPなども考慮して、パブリッククラウドをバックアップ先として利用したいと思っています。Cohesityであれば、パブリッククラウドとも接続でき、また圧縮してデータ転送を行うこともできるので、大容量だとコストがかかりがちクラウド利用も安価に実現できます」と語る。最後に中司氏は「短期的には、現在使用中のNetAppのサポートが終了するため、何らかのストレージシステムに移行する必要があります。そろそろ検討に入りつつありますが、Cohesityを導入したことにより、仮想環境のバックアップや、ハイブリッドクラウド化など、次のシステムの選択の幅が広がったと考えています。引き続きテクマトリックスに相談しながら、今後の事業環境やIT環境の変化に最適なシステムを選択していきたいと考えています」と語ってくださった。消防設備という人命にかかわる重要な事業を継続的に続けていくにはデータの保全は欠かせない。Cohesityの柔軟で信頼性の高いストレージシステムがニッタンの事業を支えていく。

Cohesity 導入事例

NITTAN



ニッタン株式会社

- 資本金：23億250万円
- 設立年月日：1925年12月
- 従業員数：1,171名(2020年10月1日現在)
- 本社所在地：東京都渋谷区笹塚1-54-5
- 事業概要：消防用設備全般の技術開発、生産、工事施工、機器販売、保守点検業務

<https://www.nittan.com/>